

平成 21 年 2 月 10 日

各 位

会社名	ターボリナックス株式会社
代表者の役職氏名	代表取締役社長兼 CEO 矢野 広一 (大証HC コード番号 3777)
問い合わせ先	取締役財務統括 佐藤 浩二
電話番号	03-5766-1892 (URL http://www.turbolinux.co.jp)

特別損失の計上及び平成 20 年 12 月期通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 12 月期（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）におきまして、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでその概要をお知らせするとともに、当該特別損失による影響や最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 8 月 15 日に公表いたしました平成 20 年 12 月期通期業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) 連結

① 長期ロイヤルティ評価損 187 百万円

現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、保守的に評価を行い事前購入に長期ロイヤルティについて評価損を計上することといたしました。

② 棚卸資産評価損 51 百万円

現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、保守的に評価を行いwizpyに関連する製品・材料等についての評価損 42 百万円、その他の製品・材料等についての評価損 9 百万円の計 51 百万円を計上することといたしました。

③ その他の特別損失 145 百万円

固定資産除却損 25 百万円、子会社の事業休止に伴う評価損 24 百万円、減損損失 30 百万円、投資有価証券評価損 4 百万円、貸倒引当金繰入 43 百万円、事務所移転費用 17 百万円等を計上することといたしました。

(2) 個別

① 関係会社投融資評価損 326 百万円

連結子会社における現在の事業環境から将来の損益状況、キャッシュフロー及び今後の見通し等を勘案した結果、保守的に評価を行い関係会社投融資について評価損を計上することといたしました。

② 棚卸資産評価損 51 百万円

現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、保守的に評価を行いwizpyに関連する製品・材料等についての評価損 42 百万円、その他の製品・材料等についての評価損 9 百万円の計 51 百万円を計上することといたしました。

③ その他の特別損失 117 百万円

固定資産除却損 25 百万円、減損損失 27 百万円、投資有価証券評価損 4 百万円、貸倒引当金繰入 43 百万円、事務所移転費用 17 百万円等を計上することといたしました。

2. 平成20年12月期の業績予想数値の修正（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

(1) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	764	△556	△541	△530	△4,896 50
今回修正予想 (B)	624	△606	△607	△976	△8,872 22
増減額 (B) - (A)	△140	△50	△66	△446	—
増減率 (B) / (A)	△18.3%	—	—	—	—
[ご参考] 前年同期実績	713	△555	△634	△1,221	△12,321 59

(2) 単体業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	406	△411	△350	△364	△3,370 87
今回予想額 (B)	336	△410	△373	△855	△7,774 23
増減額 (B) - (A)	△70	1	△23	△491	—
増減率 (B) / (A)	△17.2%	—	—	—	—
[ご参考] 前年同期実績	394	△433	△434	△1,206	△12,167 89

3. 業績予想修正の理由

当社連結業績におきましては、当連結会計年度に発売を開始いたしましたサーバー向けアプリケーション製品及びクライアント向けOS製品の立上げに予想以上の時間を要したため、OS事業の業績予想が前回公表数値を下回りますこと及び子会社においてIP-PBX製品の納期が来期へずれ込むため、子会社の業績予想が前回公表数値を下回りますことにより、当初公表しておりました予想売上高764百万円を624百万円に修正するものであります。

また、予想売上高の減少に伴い、予想営業利益につきましては△556百万円から△606百万円へ、予想経常利益につきましては△541百万円から△607百万円へ、予想売上高の減少に加え、wizpyに関連する製品・材料等についての評価損（42百万円）、ライセンスの事前購入について保守的に評価したことによる評価損（187百万円）、事業ドメインの見直しを行い子会社のサービスを停止したことによる評価損（24百万円）、来期において低コストのオフィスへ移動を予定しており固定資産の評価損及びオフィス移動に関連する費用を保守的に計上したことによる評価損（42百万円）等の特別損失の計上に伴い、予想当期純利益につきましても△530百万円から△976百万円へ、それぞれ修正するものであります。

当社単体業績におきましては、前述のOS事業において新製品の立上げに予想以上に時間を要した影響により、予想売上高につきましては406百万円から336百万円に、予想売上高の減少はあったもののコスト削減効果により、予想営業利益につきましては△411百万円から△410百万円へ、予想経常利益につきましては△350百万円から△373百万円へ、予想売上高の減少に加え、関係会社への投融資を保守的に評価したことによる評価損（326百万円）、前述のwizpyに関連する製品・材料等についての評価損（42百万円）、オフィス移動に伴う固定資産の評価損及関連費用（42百万円）等の特別損失の計上に伴い、予想当期純利益につきましても△364百万円から△855百万円へ、それぞれ修正を行うものであります。

以上